

松井 千昭校長先生

私は3月末で定年退職となります。今振り返ってみると、38年間の教員生活の中で様々な経験をさせていただき、充実した人生を送ることができたと思っております。生徒の皆さんには口頭で伝えたことはありませんが、実は、私は昭和60年度から平成4年度まで本校で勤務していました。保護者の皆さんの中には当時本校に在籍されていて、私のことを覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。私が赴任したのは本校が開校して2年目のことで、北舎の職員室から西側や体育館はまだ建設中でした。入学式と始業式は徒歩で移動して、池田町中央公民館で行ったことを覚えています。最初は男子バレーボール部の顧問で、放課後の練習は池田町中央公民館の北側にあった施設をお借りして行っていました。現在その建物は取り壊されて駐車場になっています。赴任して1年目の夏に体育館が完成して、9月には文化系部活動の発表の場である文化発表会（現在の文化祭）が行われました。本校で勤務していると30年以上前の記憶が少しずつ戻ってきて、実年齢よりも気分的に若くられるのはありがたいことです。

県内で最後の普通科新設校として設置された本校は、他の伝統校と比較すれば歴史はまだ浅いですが、すでに36年目が過ぎました。卒業生の数も9,000名を超え、皆さんが社会で活躍されていますし、在校生の皆さんも高校生活を有意義に送っています。地元の様々な団体から支援をいただき、また生徒の皆さんが活躍できる場をたくさん提供していただき、堅実な活動を続けている学校で勤務する機会が得られたことは、私の人生における誇りだと思います。

これまで集会の場で様々な話をしてきましたが、離任にあたって生徒の皆さんにお願いしたいことを述べます。令和元年度の終業のあいさつの中で学ぶことについて触れていますが、学ぶ姿勢を維持していくときに考えてほしいことがいくつかあります。その一つは、謙虚さを持ち続けてほしいということです。他人との関わりの中で、時には自分の意見を強く主張したいことがあるでしょう。また相手の意見に何か理不尽なことが含まれていると感じることもあるでしょう。間違っていることに対しては否定することも必要ですが、現状を前進させるためには、適当なところで折り合いをつける、つまり妥協するということが必要ではないかと思います。妥協というのはマイナスイメージを表す言葉のように感じられることもありますが、謙虚な態度を示すうえで必要なことではないかと思います。自分が優位な立場にあると思いを違えて、それを露骨に示すことは決して望ましいことではありません。もう一つは、効率的な学びを求めるために様々な工夫をするのは当然必要なことです。基本に戻って、同じことの繰り返しに飽きることがない人にもなってほしいということです。スポーツや芸術の世界に限らず知識や技能を身に付けるためには、反復練習をすることが結果として最も効果的な方法であると思います。多少時間がかかっても、忍耐強く取り組める姿勢を持ち続けてください。そうすることが自分の力を大きく伸ばすことになると思います。

縁あって本校で2年間務めさせていただき、定年を迎えることができたことに大変感謝しています。生徒の皆さん、保護者・地域の皆さま、職員の皆さん、本当にお世話になりました。池田高校での思い出を忘れることなく、新たな人生を歩みたいと思っております。皆さんが今後ますます活躍されますことを願って離任のあいさつとします。本当にありがとうございました。